



クリバネアザミウマの初確認について (ピーマン)

茨城県病害虫防除所では、令和7年9月に県内の施設栽培のピーマンほ場において、葉裏にアザミウマ類のかすり状の被害痕を、10月上旬には同ほ場の被害葉上にアザミウマ類の寄生を確認しました。

横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、クリバネアザミウマであることが判明したため、11月28日に特殊報を発表し注意を喚起しています ([tokusyur7-3.pdf](#))。

本種は各種殺虫剤に対する感受性が高いと考えられているため、早期発見に努め、アザミウマ類に登録のある薬剤により防除を行ってください。



写真1 かすり症状の被害痕



写真2 かすり症状の被害痕(拡大)



写真3 クリバネアザミウマ成虫

写真1～4: 茨城県病害虫防除所



尾部末端
排泄物

写真4 クリバネアザミウマ幼虫

形態の特徴

国内での発生: ピーマン・シシトウ(高知県:平成15年)、クワイ・アガパンサス(神奈川県:平成15年)、ナス(岡山県:平成16年)、ミョウガ(埼玉県:平成18年)、カラー(千葉県:平成19年)、ダリア(熊本県:令和2年)など

- (1) 雌成虫は褐色で体長は1.2～1.5 mmである(写真3)。
- (2) 幼虫の体色は黄色で、腹部背面に排泄物が固着した点状の褐色の物質が認められ、尾部末端に球状の排泄物を保有する場合が多い(写真4)。

被害の特徴

- (1) 葉を舐めるように吸汁加害し、葉にかすり症状や退緑斑点および排泄物によるすす状の汚れを発生させる。また、茎部、果実にも被害や汚れが見られる。

防除対策

- (1) 雑草等で繁殖する可能性があるため、圃場および周辺の雑草および作物残さを適切に処分する。
- (2) 施設内への侵入を防ぐため、防虫ネット(特に赤色系)、近紫外線除去フィルム、シルバーマルチ、粘着シート等を設置する。
- (3) 圃場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。

・ **寄生範囲は広い**
・ 海外では、
バショウ科、サトイモ科、ウコギ科、
ユリ科、コショウ科、サボテン科、
ツユクサ科、キョウチクトウ科、キク
科などで寄生が確認されている。

表 ピーマン アザミウマ類の主な防除薬剤

(令和7年12月10日現在)

薬剤名	対象害虫	希釈倍率	使用時期/使用回数	分類※2
ベストガード粒剤	ミナミキイロアザミウマ	1～2 g/株(植穴処理土壌混和)	定植時/1回	4A
モベントフロアブル	アザミウマ類	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	23
アグリメック	アザミウマ類	500～1,000倍	収穫前日まで/3回以内	6
グレーシア乳剤	アザミウマ類	2,000倍	収穫前日まで/2回以内	30
コテツフロアブル	ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ	2,000倍	収穫前日まで/2回以内	13
ディアナSC	アザミウマ類	2,500～5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
モスピラン顆粒水溶剤	アザミウマ類	4,000倍	収穫前日まで/2回以内	4A

※2: 分類欄にはIRACコードを記載しました

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。